

代表質問Q&A

市政会代表
下道恵子議員



○子育て支援について ○農業施策について

そのほかの質問

- ・令和2年度当初予算について
- ・観光施策について
- ・市のU・Iターン施策について

問 市の子育て支援は、福井勝山総合病院で妊婦検診を第一回から受け、県内の病院で出産すると1人10万円を支給するという「ここに妊婦奨励金」などがあり県内一を目指している。その上で「出産祝い金」として第1子目より全員に10万円を支援するのでもいいのではないかと思うが市の考えを伺う。

答 平成27年度に実施したアンケート調査結果に基づき、平成29年10月から第3子以降のお子さんに20万円を出生時に一括で交付することに見直した。今後も既存の制度の見直し等を図りながら、あらゆる子育て世代に対するより効果的な経済的支援策を考えていく。

問 「農業委員会」が農業従事者を対象に「農業経営に関する意識調査」のアンケートを取られたがその結果と課題を伺う。また「集落営農」を立ち上げる必要性、その「集落営農」を法人化した場合のメリットとデメリットはどのようなものか、法人化する際にはどんな支援があるのか、そして今後どのような「勝山市農業」を目標としているのか伺う。

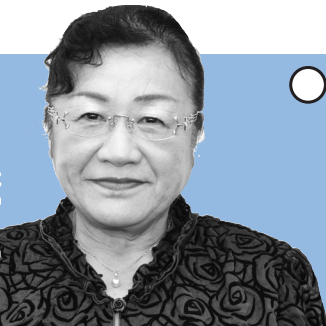
答 アンケート結果からは農業従事者の高齢化が顕著となっており、課題として後継者不足の実態が浮き彫りとなっている。集落営農は、農地、機械・施設、労働力を十分に活かす仕組みとして必要性が高まっており、法人化のメリットは、設備投資への積立ができることなどがあり、デメリットは事務作業の増加などがある。

法人化への支援については、その集落に一番適した農業がどのような形態なのか、地域の状況に合わせて将来に向けた話し合いが進むよう取り組む。また、国の農業経営法人化支援総合事業を活用して進めて行きたいと考えている。

今後の目標としては、勝山市の地理的条件の中で、持続可能な農業を進めて行けるよう努めていく。

代表質問Q&A

市民の会代表
富士根信子議員



○中学校給食について

そのほかの質問

- ・中学校再編について
- ・認知症の方やご家族の方への支援について

問 市民の会では、市民の方から勝山の暮らしについてお話を聞く機会を設けている。中学校の学校給食について伺う。

○勝山市では、中学校給食が業者委託になった理由、経緯とその給食費の内訳。

○学校給食法や食育基本法・学校教育での食育実践を念頭に、中学校給食の取り組みが適切か。

市民の会の見解は、食に対する楽しみ、喜びは味覚、視覚を通じて得られるものであり、その楽しさや喜びがあることで、食への正しい理解や判断が得られるものである。その楽しさと喜びが知育・徳育・体育の基礎になり、豊かな人間性を育み、中学校教育に貢献していくと考える。また、文部科学省のウェブサイトに、「成長期の子どもに対する食育は、子どもたちが一生にわたって健やかに生きていくことができよう、その基礎をつくるために行われるもの」と示されている。

今の中学校給食は楽しみや喜びを得られるものほど遠く感じる。以上

答 中学校の給食は、現在の3中学校体制となった昭和49年度には、すでに主食を持参し、副食を業者から納入する方式を採っていた。当時、市内に業者が2社あり、3中学校がそれぞれに委託していたが、平成14年度に業者が1社となったため、3中学校全校が同じ業者に委託することとなった。

基本的に人件費、光熱水費、施設設備費等は市負担とし、1食219円を実績に依りて支払っている。また、食材費等は保護者負担ということで、副食費等合計1食295円を毎月集金している。

長年勝山市の中学生の給食を支える納入委託業者と栄養教諭や給食調理員により、学校給食が成り立っている。これから「感謝」する心を育てる「食育」のもと、安心・安全でおいしい給食を提供できるよう努力していく。